

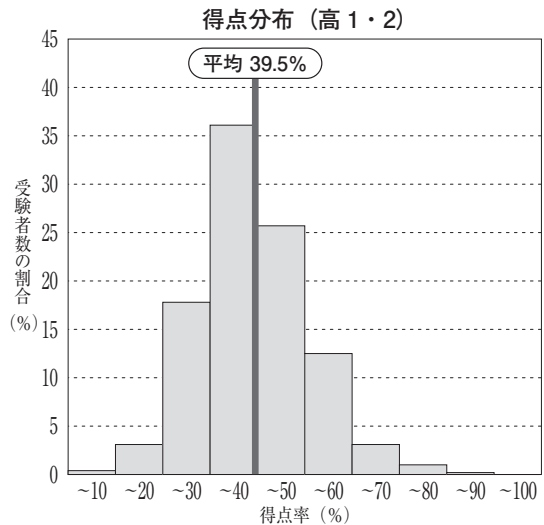
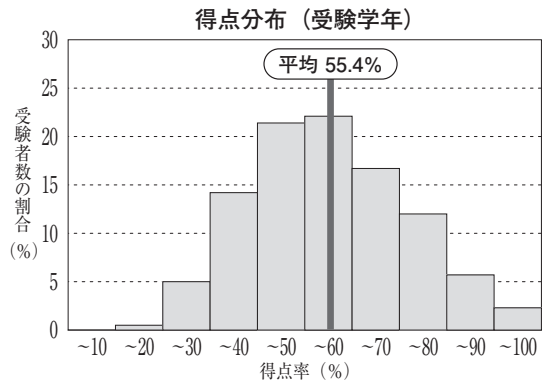
日本史 B

全国の強者、ここに集う！ 切磋琢磨で「頂点」へ！

I. 全体講評

恒例になった東進の「全国統一高校生テスト」に今年も多くの全国の強者が参加した。受験学年の熱気はもちろんのこと、高校1年生・2年生のモチベーションの高さも実感することができた。そのモチベーションを維持しながら「頂点」を目指して日々を大切に過ごしてほしい。

全国統一高校生テスト・日本史 B の受験学年における平均点は 55.4 点と、前回の数字 (50.2 点) を約 5 点上回る結果となった。日々の努力により順調に実力を伸ばしている様子を垣間見ることができる。今後の課題を挙げるとすれば、さらなる得点力の向上を図るため、苦手なテーマをいかに克服するか、この一点に絞られてくるだろう。今回の結果から、古代の地方政治や近世の土地制度の習熟度が「いまひとつ」であった。まず、今回のテストにおける疑問点を払拭するため、隅々まで解答解説を熟読することを求めたい。新たな発見があるはずだ。



II. 大問別分析

■各学年の平均点、大問ごとの得点率

学年	平均点	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問	第6問
高1	37.1点	47.3%	39.1%	31.1%	44.9%	38.6%	27.2%
高2	39.8点	49.2%	52.9%	37.7%	39.2%	38.5%	27.3%
受験学年	55.4点	64.1%	69.4%	55.7%	59.2%	56.3%	37.4%
全員	51.8点	49.0%	51.5%	37.0%	39.8%	38.6%	27.3%

受験学年のデータをもとに分析をおこなう。

第1問 老いに関する会話

時事的な話題には常に関心をもち、問題点と解決策について考察してみよう！

「老い」を題材に会話文形式で全時代を対象とした総合問題とした。日本は高齢化社会を迎えており非常に社会的関心度も高い。時事的な問題に関しては、入試問題で取り上げられる場合もあるので常に注視してほしい。

第1問の得点率は64.1%と6割を超える好結果であった。問1の45.3%以外はすべて5割以上を確保し、問4の空欄補充問題は実に94.1%をたたき出した。問3・問6の図版やグラフを使用した問題も7割(ともに74.0%)を超えるなどしっかり対応できていたようだ。この感覚を忘れずに、過去問にも果敢にチャレンジしていこう。

第2問 古代の統治機構

統治機構が構築されていく過程やそのシステムの変遷について理解を深めていこう！

古代の統治機構を題材に政治史を中心に出题した。統治機構が構築されていく過程とそのシステムは、時代が経過するにつれどのように変化していくのかを、俯瞰的に理解することを心がけよう。

第2問の得点率は69.4%と大問6題中、最高の数字であった。古代史に関する習熟度の高さをうかがうことできる。その中でも唯一、足を引っ張った結果になったのが問6だろう。41.9%と5割を下回った。10世紀以降の国司制度の変容や土地制度の変化に関する問題は頻出である。「何が」「どのように変化したのか」をしっかり明確にすることが大切だ。

第3問 中世の社会・経済

定番になっている民衆生活にアプローチした社会経済史を得点源にしよう！

中世の民衆生活に密着した社会・経済を中心に出题した。受験生の間でも得点差が生じやすいテーマであるので、図版などの駆使しつつ記憶を強化する作業を遂行していこう。

第3問の得点率は55.7%と5割は確保できたが、第1問・第2問と比較するとやや伸び悩んだ。問4・問6はそれぞれ39.7%、44.1%と低調であった。

貫高制と石高制、中世の都市に関する問題に弱点があるようだ。とくに貫高制と石高制の相違点を理解することは、戦国大名や近世社会の統治機構に関わる重大な問題なので、早急に対策を講じ徹底理解を心がけてほしい。

第4問 近世の対外関係

「鎖国」政策の概念を理解することから、江戸幕府の対外戦略を分析してみよう！

「鎖国」体制を軸とした近世の対外関係について出題した。いわゆる「四口」を通じた朝鮮・琉球の通信国と清・オランダの通商国との関係をしっかりと整理していこう。江戸幕府の対外戦略を理解する一助となるはずだ。

第4問の得点率は59.2%と6割突破までもう一歩といったところであった。政策や人物を問うた問2・問6はそれぞれ71.8%、80.1%と高水準であったが、一方で、問3の日本町に関する地図をともなった問題は36.2%と大きく崩れた。外交史の場合、言うまでもなく、地図を使用した問題は毎年出題されるだけに、視覚に訴えた学習により、よりインパクトをつけていくことが何よりも重要だ。

第5問 明治時代の教育

テーマ史学習は得点力向上のための即効薬であることを認識しよう！

明治時代の教育史に関するテーマ史を出題した。テーマ史学習は一つの史実に集中して学習できるので理解度が深まり得点に直結していく。とくに近現代の教育史はボリュームも多く出題されやすいテーマなだけに、細部にわたった綿密な学習が必要だ。

第5問の得点率は56.3%と健闘したと言えるだろう。明治維新に関する出題であった問1・問2は71.1%、68.6%と好調であった。しかし、肝心の教育史に関する年代整理問題であった問3は26.0%と不本意な結果に終わった。この数字からも体系的な理解が不足している状況であることがわかる。克服すべき「課題」であることを認識し迅速に行動すること。

第6問 日本と万国博覧会とのかかわり

本番から逆算し、いつまでに通史学習を終わらせるのか、その期日を設定しよう！

センター本試・日本史Bでは例年、第6問の配

点が一番高い。それだけに網羅性を重視した通史学習をいつまでに終わらせるのかといった期日を設定し計画通り教科書の最終ページまでしっかり確認すること。

第6問の得点率は37.4%と大問6題中、最低の数字に終わった。5割の正答率を超えたのが問1(50.1%)と問3(56.8%)のみで、他の問題は軒並み2割台から4割台であった。とくに大正・昭和戦前・戦後の歴史は政治・外交・経済がそれぞれ「蜘蛛の糸」のように複雑に絡み合っているだけに、理解度を深めるには時間を要することを強烈に認識してほしい。

Ⅲ. 学習アドバイス

◆受験生及び既に受験勉強に励んでいる人へ

得点力を向上させるためには、まず、みずからの苦手としている分野はどこなのかを、客観的に分析してみることが肝要だ。解答解説を熟読して、失点した問題に関して、欠如している知識は何かを把握してみよう。そうすることで、具体的な打開策を見出しやすくなる。弱点を力強く“正面突破”することを求めたい。

さらに、異なるテーマの関連性を見出すことで、柔軟性のある思考力を養成しよう。政治史・外交史・経済史・文化史はそれぞれ個々独立して成り立っているものではなく、常に有機的につながっていると考えてよい。柔軟性をもった思考力は「生きる力」に直結する。

◆これから本格的な受験勉強に取り組む人へ

得点率がこの時期にすでに5割を超えていた大問もあり、潜在能力の高さを実感することができた。潜在能力を引き出すには、定期的な自主学習が非常に大切だ。まずは教科書を熟読し、歴史を大局的にとらえる時間を常にもつこと。刻々と変化する歴史を実感することにより、細部にわたった史実よりも歴史の「流れ」をしっかりつかんでいこう。

一 真面目とはね、君、
真剣勝負の意味だよ 一

夏目漱石